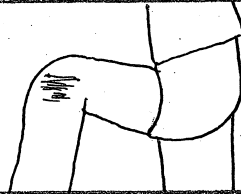


ま 摩 擦 →



あ
こすり合わせること。
すれあうこと。

す 擦り傷 →



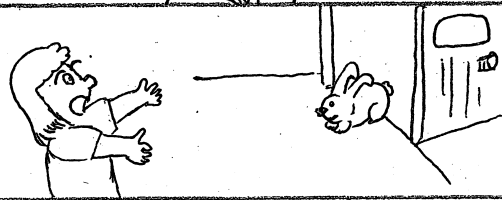
ほだ
すりむいた=肌の
きず
傷。

ちん み 珍味 →



た ちの
めずらしくて、おいしい食べ物

めずら きやく 珍しい客 →



み
見る=とがまれな
きやく
お客。

みょう き 妙技 →



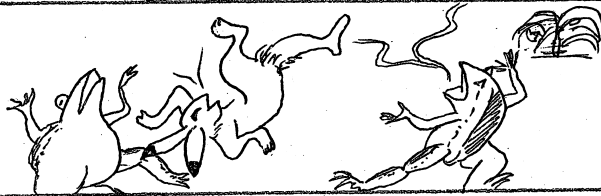
たく
すぐれて巧みな
わざ。

しん みょう 神妙 →



すなおで、おとほいこと。

ぎ が 戯画 →



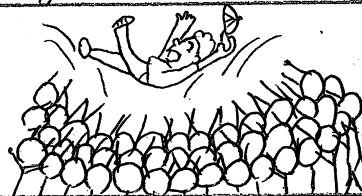
ふうし れ
風刺を交えたこけい
え
は絵。

ぎ きやく 戯曲 →



じょうえん むてき か
上演する目的で書い
たえんげぎの脚脚本。

どう あ 胴上げ →



おおぜい ひ
大勢である人のからだを
なんかい 何回も
何回も投げあげること。

どう たい 胴体 →



からだ どう ぶぶん
体の胴の部分

にん じゅう
刃 徒 →

「^{どの}おお 殿の仰せに忍従する」



くる きつぐう
苦い 境遇に
た 耐えて従うこと

しの ある
刃 び歩く →



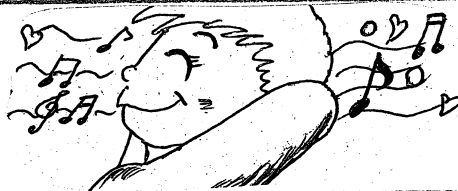
たにん し
他人に知られない
よう^{めだ}に身を立たせ
して外出すること

ふ りよく
浮 力 →



みづ なか うか あ
水の中から浮かび上
がること。

う
浮かれる →



ニニ
心がうきうきして
お
落ちつかなくなる。

もう や
芒 野 →



のほら
あれはてた野原。
あれの。

いき あら
自 心が芒 しい →



いき
息があらあらしい。

あ ち
芒 れ地 →



ニうさく
耕作していいない、ま
たは耕作に^{てき}適しない
とち。

はん てん
斑 点 →



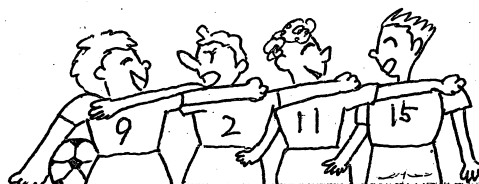
ち
まだらに散らば
ている点。

かん き
歡 喜 →



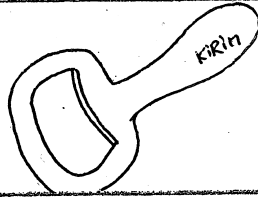
たい
大そうよろこぶこと。
よろこび

こう かん
交 歡 →



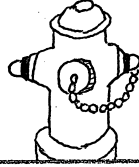
よろこびをともにわ
あ
かち合うこと。

^{せん} ^ぬ
栓抜き →



^{せん} ^ぬ
びんの栓などを抜き
と ^{きぐ}
取る器具。

^{しょう} ^か ^{せん}
消火栓 →



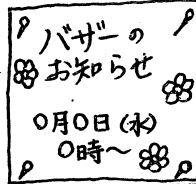
^{しょう} ^か ^{せん} ^{すいどう}
消火用の水道の
^{きゅうお} ^{せん}
給水栓。

^{ちやう} ^ふ
貼付 →



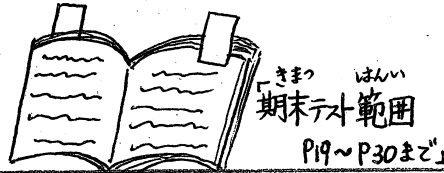
はりつけること
てんぷ。

^は ^{がみ}
貼り紙 →



^{がみ} ^{ちゅうい} ^{めいれい}
紙に、注意や命令や
^{せんてん} ^{しる} ^{ひとめ}
宣伝などを記して人の目
につく所に貼ること。

^{はん} ^い
範囲 →



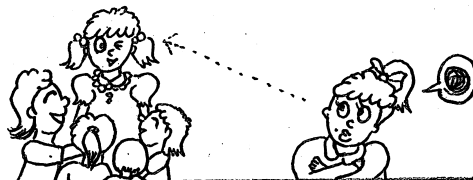
いつい ^{ひろ}
一定のきまつた広がり。

^し ^{はん}
師範 →



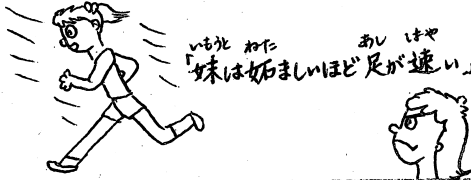
^{がく} ^{もん} ^{ぎげい} ^{きょうじゆ}
学問、技芸を教授
する人。

^し ^と
嫉妬 →



^{じふん} ^{もの}
自分よりすぐれた者を
ねたむこと。

^{ねた}
妬み →



しゃくだと ^{かん} ^{おぼ}
感ずると、
くやしいと思う。

^{かん} ^{しょう}
鑑賞 →



^{げい} ^{じゆつ} ^{さく} ^{しん} ^り ^{かい}
芸術作品を理解
^{あじ}
し、味わうこと。

^{かん} ^{バツ}
鑑別 →



^{かん} ^{てい} ^み
鑑定して見わけ
ること。